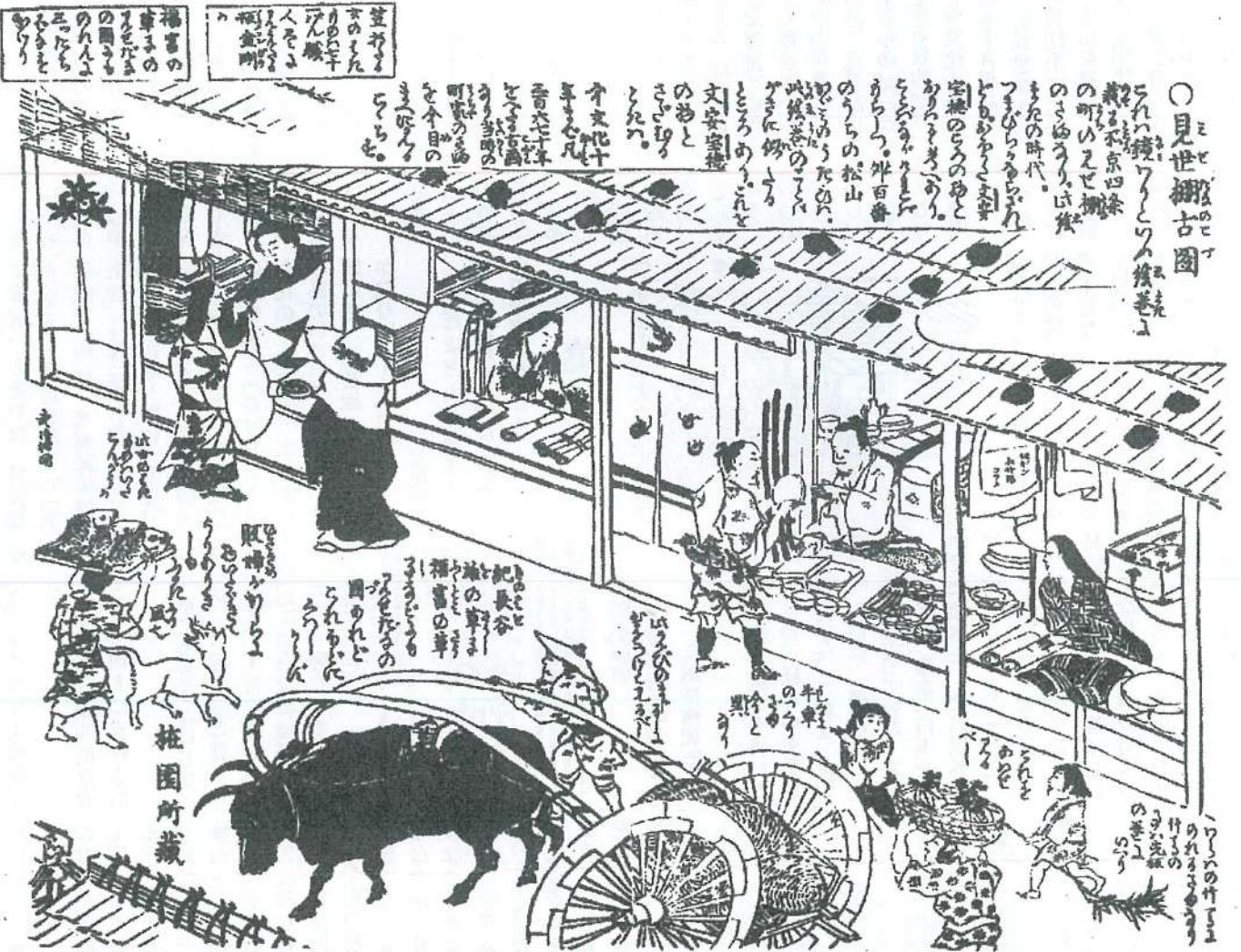


# 大道芸通信

編集発行/日本大道芸・大道芸の会 光田 憲雄 (daidogeikib.biglobe.ne.jp) http:// daidogeinfo



○見世棚古図

荷運び用の牛車は「ぎつしや(牛車)」ではなく「うしくるま(牛車)」

見世棚古図 (『骨董集』)

上図は「骨董集」の子供である。以下原文『骨董集』(文化)「わらはの竹馬にのれるさま十年一八一なり 竹馬の事は先板のまき三板・山東にいへり」京伝作が掲 左隣野菜売りの女 載するもの「これをあはせ見るべし」写しである。牛車車輪の上 時代的には「牛車」のつくりさま 今と 文安から宝異なれり」 徳年間(一四※実際の発音は「うしくるま」 四四〇五二)と濁つたとも考えられる 頃の京都四條の商店の見世「此うんび(運尾?)のまじる棚(構え)のし(目印?)に き(氣)をつけ 様を描いたとて見るべし」 している。

文化十年か(紀伊)の長谷雄の草子などから三百六七のもの見せだなの図あれど、三十年前の町家れほどにくはしからず」の様を、今日の前に見る心(販婦がかしらに物いただ地がするときて うりありき(売り歩き)褒めている。しも ふかき風なり」

下半分は、通りを歩く「此女のはきものは」人々の姿の説明である。室町時代の京都の繁華街の右端の子供 様子おわかりただけたと思は「竹馬遊う。同時に牛車(ぎつしや)とび」をしている牛車(うしくるま)の別も。